

平成 31 年電気学会全国大会特別講演（本部企画）について

特別講演（本部企画）

演題「未来の電気は宇宙でつくる ～大型宇宙機のための研究開発～」

日 時：2019 年 3 月 13 日（水）14 時 00 分から 17 時 45 分（大会 2 日目 午後）

会 場：北海道科学大学 E 棟 4 階 E401 教室（サテライト会場：E404 教室）

特別講演（本部企画）は 午後 14 時 35 分～15 時 35 分（60 分間）を予定しております。

講演内容は、年々大型化する宇宙機(人工衛星・探査機)の研究開発のお話となります。現在、一番大きい宇宙機は国際宇宙ステーション（サッカーの公式フィールドと同じ位の大きさ）ですが、21 世紀半ばの実現を目指している太陽発電衛星（宇宙につくる発電所）は、数 km 四方という巨大構造物です。宇宙特有の環境対策、宇宙にものを運ぶための収納・展開、太陽電池などのお話を一般の方にもわかりやすくご講演いただきます。

講演者名 相馬 央令子（そうま えりこ）

所 属 国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構

プロフィール

2008 年に東京理科大学大学院工学研究科電気工学専攻博士後期課程を修了。博士(工学)。同年より宇宙航空研究開発機構（JAXA）研究員。

2002 年より物体が超高速(秒速数 km)で衝突した際の電波放射現象の解明および宇宙ごみ(スペースデブリ)の衝突検出システムの研究を行う。2010 年に H2A ロケットで打ち上げた世界初の宇宙ヨット「IKAROS(イカロス)」プロジェクトで、薄膜太陽電池の開発・運用に従事。近年は宇宙太陽光発電システム(SSPS)に携わる。

研究のかたわら、一般の人へ宇宙開発の魅力を伝える活動や女性科学者を増やす取り組みの支援を行う。日刊工業新聞の「未来を駆ける新進研究者」欄、毎日新聞の「ひと」欄などで紹介。NHK ラジオ深夜便「列島インタビュー」や NHK サイエンス ZERO にも出演。